

小学校英語教科書の研究

津 村 敏 雄

要 旨

2020年（令和2年）4月から新しい学習指導要領（平成29年告示）が施行され、小学校の高学年においては（これまでの「外国語活動」から）正式な教科として「外国語（英語）」の授業が全国で実施されている。また、教科化に伴って小学校の英語教育では初めてとなる編纂・検定・採択の手続きを経た検定教科書が授業で使用されている。そして、これまで小学校の高学年で行われてきた「外国語活動」では、（英語の4技能のうち）「聞くこと」と「話すこと」の言語活動を通してコミュニケーション能力の素地を育成することに焦点が置かれてきたが、新しい教科としての「外国語（英語）」においては、小学校学習指導要領の「外国語（英語）」の目標に掲げられた4技能5領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）の言語活動を通してコミュニケーション能力の基礎を育成することが求められている。そこで本稿では、小学校の英語教育で初めて使用されている検定教科書（7社14冊）はどのような教科書となっているのかについて分析を試みた。分析結果から、コミュニケーションを図る資質・能力（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）を育成すべく、4技能5領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）の活動、複数の領域との統合的な活動、CAN-DO形式による学習到達目標の明示、音声や動画の二次元コード（QRコード）の設置、独自の手書き書体の開発、4線ノートの工夫、他教科との横断的学習、カラーユニバーサルデザイン等の特別支援教育への配慮、モジュール（短時間）学習への対応など、新学習指導要領を遵守しつつも、各出版社では様々な創意工夫を凝らした魅力的な教科書づくりが行われていることが明らかになった。

1. はじめに

2020年（令和2年）4月、新しい小学校学習指導要領（平成29年告示）が施行され、これまで移行措置として既に前倒しで実施してきた小学校も含めて、全国の小学校の高学年（5年生・6年生）において、週に2単位時間（45分×2）、年間で70単位時間の教科としての英語の授業が全面実施されている。そして、これまで高学年において実施されてきた「外国語活動」における英語の授業は、中学年（3年生・4年生）において週に1単位時間（45分×1）、年間で35単位時間の「外国語活動」における英語の授業も行われている。この新しい学習指導要領は、2014年（平成26年）2月に文部科学大臣による諮問、同年の英語教育の在り方に関する有識者会議の発足で本格的に着手し、2015年（平成27年）8月に中央教育審議会初等中等教育分科会の教育課程部会の教育課程企画特別部会による報告「論点整理」、2016年（平成28年）8月に中央教育審議会初等中等教育分科会の教育課程部会によ

る報告「審議のまとめ」、2016年（平成28年）12月に中央教育審議会による答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」を経て、2017年（平成29年）3月に小学校学習指導要領（平成29年告示）として改訂されたものである。本稿では、これまでの小学校の英語教育の経緯と新しい学習指導要領の概要を踏まえた上で、教育基本法、学校教育法、そして、この新しい学習指導要領に示された目標と内容に沿って、教材として具体化して作成されているすべて出版社の小学校の英語の検定教科書（7社14冊）を資料として、どのような特徴があるのかについて分析を試みる。

Ⅱ. 小学校の英語教育の経緯

まず、「外国語活動」および「外国語（英語）」が新設されるまでの経緯について概観する。小学校での英語教育は私立学校においては明治時代から行われてきたが、公立学校においては導入されることはなくもっぱら中高の枠組みに収められてきた⁽¹⁾。戦後、英語が国際語としての地位を確立し、高度経済成長を経て日本経済が急速に成長するにつれて、平泉渉と渡辺昇一による「英語教育大論争」と呼ばれる實用論と教養論をめぐる討論や、英語を使うことのできる日本人の育成を求める声が経済界などから高まるようになった。1986年（昭和61年）4月、臨時教育審議会の答申「教育改革に関する第二次答申」における外国語教育の見直し的一部分として「英語教育の開始時期についても検討を進める」の文言が盛り込まれたことが契機となり、小学校への英語教育の導入が文部科学省で本格的に検討されることとなった。1992年（平成4年）には国際理解教育の一環とする英語教育を実験的に導入する研究開発校として大阪市内の2つの公立小学校（真田山小学校と味原小学校）を指定し、1993年（平成5年）には研究開発校2校を追加指定し、1994年（平成6年）には研究開発校を全国に拡大して12校を指定した。さらに、1996年（平成8年）には全国の各都道府県の47の小学校を研究開発校に指定して大幅に規模を拡大した。同年の中央教育審議会の答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」には、小学校での外国語教育の方針が示され、教科として実施する方法はとらないが、国際理解教育として総合的な学習の時間を活用することや、特別活動などの時間の中で子どもたちに外国語に触れ、外国の生活・文化などに慣れ親しむ機会をもたせるなどの具体案を示した。この答申を受けて、1998年（平成10年）に改訂された学習指導要領（平成10年告示）に総合的な学習の時間が新設されて、国際理解教育に関する学習の一環として外国語教育を行うことが可能になり、2002年（平成14年）に小学校学習指導要領（平成10年告示）が施行されて、全国の小学校において「英語活動」が行われることになった。2008年（平成20年）に中央教育審議会は小学校教育課程に「外国語活動」の新設を答申、同年に学習指導要領（平成20年告示）が改訂され、小学校の高学年（5年生と6年生）に「外国語活動」を新設することになり、2012年（平成24年）に小学校学習指導要領（平成20年告示）が施行され、小学校の高学年（5年生、6年生）で「外国語活動」が全面実施された。なお、教科ではないことから検定教科書は出版社では作成されなかった代わりに文部科学省が作成した副読本『Hi, friends! 1, 2』を配布して授業が行われた。2017年（平成29年）に新しい小学校学習指導要領（平成29年告示）が改訂され、小学校の高学年（5年生・6年生）に新しい教科として「外国

語（英語）」を設置すること、「外国語活動」は小学校の中学年（3年生・4年生）に導入することが示された。2020年（令和2年）に小学校学習指導要領（平成29年告示）が施行され、小学校の高学年（5年生・6年生）で「外国語（英語）」、小学校の中学年（3年生・4年生）で「外国語活動」が全面実施されることになり現在に至る。（表1）

表1 小学校英語教育の変遷

1986年(昭和61年)	臨時教育審議会答申で英語教育の開始時期を見直す検討を提言
1992年(平成4年)	国際理解教育として小学校に英語教育の研究開発校（2校）を設置
1996年(平成8年)	全国の各都道府県の小学校に英語教育の研究開発校（47校）を設置
1998年(平成10年)	小学校学習指導要領（平成10年告示）改訂、「総合的な学習の時間」設置
2002年(平成14年)	小学校学習指導要領（平成10年告示）施行、「総合」で「英語活動」開始
2002年(平成14年)	『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想で小学校英語の充実
2006年(平成18年)	中教審外国語専門部会にて高学年（5, 6年生）での英語の必修化を提言
2008年(平成20年)	小学校学習指導要領（平成20年告示）改訂、「外国語活動」が確定
2009年(平成21年)	高学年に「外国語活動」を導入、副読本『英語ノート1, 2』配布
2011年(平成23年)	小学校学習指導要領（平成20年告示）施行、高学年で「外国語活動」
2012年(平成24年)	副読本『Hi, friends! 1, 2』配布
2013年(平成25年)	教育再生実行会議「第3次提言」で小学校英語学習の抜本的拡充を提言
2013年(平成25年)	「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」で教科化を提言
2014年(平成26年)	「グローバル化に対応した英語教育改革5つの提言」で教科化を提言
2017年(平成29年)	小学校学習指導要領（平成29年告示）改訂、高学年での教科化が確定
2018年(平成30年)	移行期の副読本『Let's Try 1, 2』『We Can! 1, 2』配布
2019年(平成31年)	小学校高学年の検定教科書（7社による2学年で14冊）を発表
2020年(令和2年)	小学校学習指導要領（平成29年告示）施行、中学年で「外国語活動」、高学年で「外国語（英語）」開始

(出所) 筆者作成

II. 小学校学習指導要領（平成29年告示）

次に、2017年（平成29年）3月に改訂された新しい学習指導要領（平成29年告示）の概要について述べる。今回の改訂は、2016年（平成28年）の中央教育審議会答申を踏まえたものであり、「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと」「子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する社会に開かれた教育課程を重視すること」「知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成20年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること」「先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること」を基本的なねらいとしている。これまでの学習指導要領に示されてきた「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「何を理解し

ているか、何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の三つの柱に整理するとともに、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に基づく再整理が行われた。さらに、今回の改訂では、子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付けるようにするために学習の質を一層高める「主体的・対話的で深い学び」（深い学びの鍵として「見方・考え方」）の実現に向けた授業改善の推進と、学校全体として児童生徒・学校・地域の実態を適切に把握して教育内容や時間の配分・必要な人的・物的体制の確保・教育課程の実施状況に基づく改善などを通して教育活動の質を向上させることで学習の効果の最大化を図るというカリキュラム・マネジメントの推進が大きな変更点となっている。

表2 小学校学習指導要領の外国語の目標

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(出所) 文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)』

続いて、新しい学習指導要領の方針を科目として具体的に示されている新設科目「外国語」の目標を取り上げる。小学校の「外国語」の目標は、今回の学習指導要領の改訂を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で、「見方・考え方」を働かせることによって「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から改善・充実を図る。学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要であるとしている。また、技能別の到達目標については、旧学習指導要領における高学年の「外国語活動」においては「聞くこと」「話すこと」の育成であったが、新学習指導要領における高学年の「外国語(英語)」ではさらに「読むこと」「書くこと」の育成も加えるとともに、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)などの国際的な基準を参考にして「話すこと」を分割して、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」の5つの領域(4技能5領域)を設定し、5つの領域による言語活

動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するとしている。なお、目標は学年ごとに示すのではなく弾力的な指導ができるように2学年間を通したものである⁽²⁾。(表2)

Ⅲ. 分 析

令和2年4月から小学校で初めて使用されている高学年(5年生・6年生)用の英語の検定教科書について、編修方針、製本仕様、課の構成内容などの観点から分析を試みる。分析対象とする教科書は小学校の英語の教科書のすべてとして、『Crown Jr. 5』『Crown Jr. 6』(三省堂)、『New Horizon Elementary English Course 5』『New Horizon Elementary English Course 6』(東京書籍)、『Junior Sunshine 5』『Junior Sunshine 6』(開隆堂)、『Junior Total English 1』『Junior Total English 2』(学校図書)、『One World Smiles 5』『One World Smiles 6』(教育出版)、『Here We Go! 5』『Here We Go! 6』(光村図書)、『Blue Sky Elementary 5』『Blue Sky Elementary 6』(新興出版社啓林館)の7社14冊を対象とした⁽³⁾。現在、中学校で使用されている英語の教科書の出版社は6社だが、長年に渡って中学校の英語の教科書に携わってきた実績から小学校の英語の教科書を作成している⁽⁴⁾。唯一、新興出版社啓林館のみが現在の中学校の英語教科書を作成していない出版社であるが、新興出版社啓林館は高等学校の英語教科書において近年大きく実績を伸ばしている出版社であり、小学校で教科としての英語が開始されるのを機に小学校の英語教科書を作成していることから今後は中学校の教科書への参入も視野に入れていることが予想される。また、教科書の名称については、ほとんどの出版社が「Crown」「New Horizon」「Sunshine」など、各出版社の中学校の英語の教科書の名称として親しまれている伝統的な教科書名を小学校の教科書のタイトルにも用いていることがわかる⁽⁵⁾。

1. 『Crown Jr. 5, 6』(三省堂)

編修方針は、「学びに向かう力(学ぶことを楽しむ心を育み、主体的・協働的に学ぶ力)を育てる」「ことばを使う力(ことばに気持ちを乗せられる活動を通して、基礎的な英語力)を育てる」「考える力(目的や場面、状況に応じて、考えながらコミュニケーションを図る力)を育てる」「他とかかわろうとする心(児童の世界を広げる題材を通して、人や文化など、他とかかわろうとする心)を育てる」として、英語教育を通して、確かな学力、国際社会に対応できる資質・能力と、豊かな人間性を育成することを教育理念としている。

装丁は、オールカラー印刷のAB判(210mm×257mm)、5年生用・6年生用ともに128ページ、巻末には厚紙の付録(授業で使用する教材やカード)が収録されている。課数は、5年生用・6年生用ともに7課(Lesson 1~7)である。教科書全体の構成は、【HOP(Get Ready)】【STEP(Lesson: 2~3課を配置)】【JUMP(Presentation)】の3段階をユニットとして各学年ともに3つのユニットを設定している。そして、HOPのGet Readyはユニットで目指す姿を把握して学習の見通しを立てる(どのようなことを言えるようになりたいのか、自分ができること・できないことを確かめる)活動、STEPのLessonは語彙や表現を使いながら身に付ける(「聞く」「話す」活動を中心に「読む」「書く」活動にも慣れていく)学びの活動、JUMPのPresentationは実際の場面に応じて表現できるプロジェ

クト型（グループで活動し、主体的・協働的に学び合う）活動となっている。主要な登場人物は、日本人（Kojima Jun, Sato Yumi）、インド人（Tanya Kumar）、オーストラリア人（Katie Adams）、中国人（Wang Ming）、アメリカ人（Nick Jones）、の6名である。

課（Lesson）の構成は、【Panorama（語彙や表現のインプット）】→【Part 1～3（焦点化したインプットから徐々にアウトプットへ）】【Part 1(Listen & Talk, Sound Chant, Story/実世界の英語)】→【Part 2(Listen & Talk, Word Chant, Enjoy Reading)】→【Part 3(Listen & Talk, Talk to Friends, Enjoy Listening)】→【Write & Talk/Write & Speak/Listen & Write(4技能5領域による統合的なまとめの活動)】となっている。なお、Panoramaは、見開き1枚絵のイラストで場面や状況を示してLessonに関連する語彙を豊富に取り上げるとともに、音声の二次元コード（QRコード）が設置されていて音声を聴くことができるようになっている。

その他の特色は、4技能5領域の活動と複数の領域との統合的活動、専用の手書きフォント（ユニバーサルデザイン）の開発、4線ノートの工夫（幅）、音声の二次元コード（QRコード）の設置、巻末にCAN-DOリスト一覧の配置、発展的内容（小学校学習指導要領外の内容）の設置、自文化の発信・他文化の尊重、他教科との連動、複数の領域との統合的活動、特別支援教育への配慮（カラーユニバーサルデザインや補助的な手掛かり等）、中学校との接続（小中連携）、ICTの活用、人権・異文化理解など多様性への配慮、地球環境への配慮（再生紙と植物性インキの使用）などがある。

2. 『New Horizon Elementary English Course 5, 6』（東京書籍）

編修方針は、「みんなが英語を好きになる！」（英語を学ぶ児童だけでなく、英語を指導する教師、児童を見守る家族も、新教科である外国語科（英語）を好きになって欲しい）という思いから、「もっと学びたい！を育てる教科書」、「何ができるようになるのかがわかる教科書」、「どのように学ぶのかを示す教科書」を特色として、英語を通じて主体的に他者とつながる心とグローバル社会を生きるために必要なコミュニケーション能力の基礎の育成を目指すとしている。

装丁は、オールカラー印刷のA4判（210mm×297mm）、5年生用・6年生用ともに96ページ、巻末には厚紙の付録（授業で使用する教材やカード）が収録されている。課数は、5年生用・6年生用ともに8課（Unit 1～8）で、【Open the Door】【Unit（2～3課を配置）】【Check Your Steps】の3段階を1ユニットとし、各学年に3ユニットがある。【Open the Door】は学習の見通しを立てる活動、【Unit】は語彙や表現を使いながら身に付ける（「聞く」「話す」活動を中心に「読む」「書く」活動にも慣れていく）学びの活動、【Check Your Steps】は実際の場面に応じて表現できるプロジェクト型（グループで活動し、主体的・協働的に学び合う）活動となっている。主要な登場人物は、日本人（Ito Sakura, Kimura Hiroshi, Mr. Tanaka）、シンガポール人（Emily Smith）、ブラジル人（Lucas Silva）、アメリカ人（Ms. Green）、の6名である。

課（Unit）の構成は、【Starting Out】→【Your Turn】→【Enjoy Communication】→【Over the Horizon】の4つのパートがある。【Starting Out（Let's Sing, Let's Chant, Let's Try1, Let's Watch and Think, Small Talk, Sounds and Letters）】は「音に出会う」として歌やチャンツなど、【Your Turn（Let's

Listen 1～2, Let's Try 2～4, Small Talk, Sounds and Letters)】は「会話に慣れる」として会話練習, 【Enjoy Communication (Step 1～3, Small Talk, Sounds and Letters)】は「コミュニケーションを楽しむ」として会話実践, 【Over the Horizon (ことば探検, Challenge, 日本/世界のすてき, Small Talk, Sounds and Letters, Do you know?)】は「世界を広げる」として国際理解や多文化理解を他教科(社会, 国語, 道徳, 総合, 理科, 保健, 家庭)との横断的な学習で設けている。

その他の特色は, 4技能5領域の活動と3領域(「話す(発表)」「聞く」「話す(やり取り)」)を統合する活動と他教科との関連のマーク, ユニバーサルデザインの手書き書体の開発, 4線ノートの工夫(幅・線種・色使い), 音声と動画の二次元コード(QRコード)の設置, 諸活動を紙面の定位置に配置, 特別支援教育への配慮(カラーユニバーサルデザイン等), 目標(CAN-DOリスト)の明示, 短時間学習(15分)への対応, 中学校への円滑な学習の接続(小中連携), 『We Can!』『Let's Try』活動の重視, 別冊の『Picture Dictionary』(メトロノームを使ったりズム, QRコードに対応), ICTの活用, 教科横断への工夫(CLIL), 各課に歌(Let's Sing)を設置, 人権・異文化理解など多様性への配慮, 地球環境への配慮(再生紙と植物性インキの使用)などがある。

3. 『Junior Sunshine 5, 6』(開隆堂)

編修方針は, 「意味のある, 生きたコミュニケーション」「読むこと」「書くこと」の基礎を養う「児童の日常生活に密着した題材」として, 場面シラバスで構成するとともに英語表現には児童が使う必然性を持たせること, 「読むこと」「書くこと」を系統的に学習すること, 児童の学校生活と興味・関心に即した題材にすることの工夫が図られている。

装丁は, オールカラー印刷のAB判(210mm×257mm), 5年生用が119ページ, 6年生用が127ページ, 巻末には厚紙の付録(授業で使用する教材やカード)が収録されている。課数は, 5年生用が9課(Lesson 1～9) 6年生用が11課(Unit 1～11)で, 各課が独立した内容で構成されている。主要な登場人物は, 日本人(Ono Miki, Seki Kazuo, Mr. Shindo), シンガポール人(Jim Yang), カナダ人(Ms. Brown), アメリカ人(Hanna Clark, Mr. Davis), の7名である。

課(Lesson)の構成は, パートごとの活動がパターン化されずに様々な活動が盛り込まれている。例えば, 『Junior Sunshine 5』のLesson 3では(見開きのページの順に), 【Let's Listen 1, Let's Sing, Let's Play 1, Let's Watch and Think】→【Let's Chant 1, Let's Listen 2, Let's Play 2, Let's Play 3, Let's Play 4】→【Let's Play 5, Let's Listen 3, Let's Play 6, Let's Listen 4, Let's Play 7, Let's Try】となっているが, Lesson 6では【Let's Listen 1, Let's Chant, Let's Play 1, Let's Listen 2, Let's Watch and Think 1, Let's Play 2】→【Let's Play 3, Let's Listen 3, Let's Watch and Think 2, Let's Play 4, Let's Play 5】→【Let's Play 6, Let's Listen 6, Let's Play 7】→【Let's Listen 5, Let's Read and Write, Let's Try】となっている。導入でLet's ListenやLet's Chantなど音声から始まってLet's Tryでまとめるという部分は共通しているが, 展開部分の活動はかなり弾力的に配置されている。

その他の特色は, 4技能5領域の活動と複数の領域との統合的活動, 他教科との横断学習, 読み書きしやすい書体(ユニバーサルデザイン)の開発, 4線ノートの幅の工夫(4:5:4), 音声と動画の

二次元コード（QRコード）の設置、「CAN-DOマップ」を表紙の見返しに設置、巻末にはすべての活動別のCAN-DOリストの一覧を設置、他教科との関連した活動、特別支援教育への配慮（カラーユニバーサルデザイン等）、「文字に慣れよう」の特設コーナー（小中連携の強化）、自律的学習者を育てる「ふりかえり」欄（CAN-DOリストと対応）、ICTの活用、各課に歌（Let's Sing）を設置、人権・異文化理解など多様性への配慮、地球環境への配慮（再生紙と植物性インキの使用）などがある。

4. 『Junior Total English 1, 2』（学校図書）

編修方針は、多様性を前提とした問題解決能力を育成するという理念の下に、「繰り返しと気付きを大切にし、英語を理解する力」「身近な交流を通して英語を創造的に使う力」「英語やその文化に関心を持ち、世界を広げようとする姿勢」を育てたい資質・能力とし、具体的には、『「なぜ?」「わかった!」を尊重する力』『論理的に考える力』『多様な他者とコミュニケーションする力』『少数意見も尊重した合意形成する力』『未解決の問題への関心』『社会に貢献する意欲』としている。

装丁は、オールカラー印刷のA4判（210mm×297mm）、5年生用が157ページ、6年生用が153ページで、巻末には厚紙ではなく本文と同じ紙質で付録（授業で使用する教材やカード）が収録されている。課数は、5年生用・6年生用ともに10課（Lesson 1～10）で、各課が独立した内容の構成となっている。主要な登場人物は、日本人（Ren, Chika, Saki, Kenta, Mr. Mori）、インド人（Neil）、アメリカ人（Emma）、オーストラリア人（Ms. Jones）、の8名である。

課（Lesson）の構成は、【とびら（目標、学習の進め方）】→【導入（歌、Scene）】→【活動A（Let's Listen, Let's Chant, ①「聞く」、②「聞く」「話す」、③「話す（やり取り）」、④「読む」/「書く」】→【活動B（Let's Listen, Let's Chant, ①「聞く」、②「聞く」「話す」、③「話す（やり取り）」、④「読む」/「書く」、⑤「外国文化・他教科」】→【活動C（Let's Listen, Let's Chant, ①「聞く」、②「聞く」「話す」、③「話す（やり取り）」、④「読む」/「書く」、⑤「外国文化・他教科」】→【まとめ（Use & Check, Check Time（CAN-DOリスト））】となっている。

その他の特色は、4技能5領域の活動と複数の領域との統合的活動、他教科との横断学習、独自の手書きフォント（ユニバーサルデザイン）の開発、4線ノートの幅の工夫（5：6：5）、音声の二次元コード（QRコード）の設置、特別支援教育への配慮（カラーユニバーサルデザイン等）、各課（Lesson 1～10）の歌（歌を毎時間繰り返し聞いて口ずさむ）、各課に扉を設置（目標とふりかえり、学びの見通しを明示）、扉の「レッスンの目標」と課末のCheck Timeコーナーの両方に目標（CAN-DOリスト）を明示、短時間（15分）学習への対応（各アクティビティを15分で設置）、自学習のページの充実、中学校との接続（小中連携）、ICTの活用、外国文化・他教科との関連、人権・異文化理解など多様性への配慮、地球環境への配慮（再生紙と植物性インキの使用）などがある。

5. 『One World Smiles 5, 6』（教育出版）

編修方針は、「言語や文化についての幅広い知識と教養を身に付け、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重

んじる態度を養う」「自他の敬愛と協力を重んじるとともに、主体的に社会の形成に参画する態度、我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」としている。

装丁は、オールカラー印刷のAB判(210mm×257mm)、5年生用が118ページ、6年生用が112ページ、巻末には厚紙の付録(授業で使用する教材やカード)が収録されている。課数は、5年生用・6年生用ともに9課(Lesson 1～9)で、各課が独立した内容となっている。主要な登場人物は、日本人(Sho, Miyu, Keita, Aya, Ms. Yamada, Mr. Hayashi)、フィンランド人(Hanna)、アメリカ人(Tom, Mike)、ブラジル人(Elly)、フィリピン人(Dan, Mr. Santos)の12名である。

課(Lesson)の構成は、パートごとの活動がパターン化されずに様々な活動が盛り込まれている。例えば、『One World Smiles 5』のLesson4では(見開きのページの順に)、【Let's Watch, Let's Listen 1, Let's Think】→【Let's Sing, Let's Listen 2】→【Let's Listen 3, Activity 1, Let's Listen 4, Activity 2】→【Let's Listen 5, Final Activity】→【Sounds and Letters, Review, Lessonをふりかえろう】となっているが、Lesson 6では、【Let's Watch, Let's Say It Together, Let's Think】→【Let's Listen 1, Let's Listen 2】→【Activity 1, Activity 2】→【Let's Read and Write, Final Activity】→【Sounds and Letters, Review, Lessonをふりかえろう】となっている。導入でLet's Watchなど音声と映像から始まってFinal Activity, Sounds and Letters, Review, Lessonをふりかえろう(CAN-DOリスト)でまとめるという部分は共通しているが、展開部分の活動はかなり弾力的に配置されている。

その他の特色は、4技能5領域の活動と複数の領域との統合的活動、独自の手書き文字フォント(ユニバーサルデザイン)の開発、4線ノートの工夫(幅)、音声と動画の二次元コード(QRコード)を目次だけに設置、特別支援教育への配慮(カラーユニバーサルデザイン等)、「パラリンアート(障がい者アート)」の掲載、Lessonをふりかえろう(CAN-DOリスト)、中学年の「外国語活動」との接続の意識、他教科との連携、中学校との接続の意識(小中連携)、ICTの活用、人権・異文化理解など多様性への配慮、地球環境への配慮(再生紙と植物性インキの使用)などがある。

6. 『Here We Go! 5, 6』(光村図書)

編修方針は、「言葉・文化・価値観の異なる多様な人々と気持ちや考えを伝え合い、主体的に課題に向き合い、協力して平和な世界を築こうとする開かれた心をもつ人を育てる」という理念の下、「豊かな心を育む」「言葉を使う力を育む」「学びたい意欲を育む」である。具体的には、「世界の広さを知り、多様な価値観を受け入れる心を育む」「豊かに伝え合い、楽しみながら、言葉を使う力を育む」「学びたい気持ちを引き出し、次の学びにつなげる」としている。

装丁は、オールカラー印刷のAB判(210mm×257mm)、5年生用が136ページ、6年生用が140ページ、巻末には厚紙の付録(授業で使用する教材やカード)が収録されている。課数は、5年生用・6年生用ともに9課(Unit 1～9)で各課が独立した内容となっている。主要な登場人物は、日本人(Ueda Kazuki, Sato Yui, Kaneko Shota, Mr. Hanai)、オーストラリア人(Lily Smith)、アメリカ人(Nicholas Rios)、カナダ人(Ms. Miller)、インド人(Asha Bindra)の8名である。

課(Unit)の構成は、【HOP!(Goal, Story, Let's play.)】→【STEP 1(Let's watch, Let's Listen, Let's

chant, Let's try, Let's write)】→【STEP 2(Let's watch, Let's Listen, Let's chant, Let's try, Let's write)】→【JUMP!(Let's listen and read, World Tour, You can do it!, ふりかえろう(CAN-DO リスト))】となっている。

その他の特色は、4技能5領域の活動と複数の領域との統合的活動、ユニバーサルデザインの手書き書体フォントを開発、4線ノートの工夫(幅)、二次元コード(QRコード)の設置、特別支援教育への配慮(カラーユニバーサルデザイン等)、教科横断的な学習、Unitの扉にGoal(CAN-DOリスト)を設置、「ふりかえろう」のコーナー(CAN-DOリスト)、学びのパスポート、ICTの活用、各課に歌(英語の歌)を設置、中学校との接続(小中連携)、人権・異文化理解など多様性への配慮、地球環境への配慮(再生紙と植物性インキの使用)などがある。

7. 『Blue Sky Elementary 5, 6』(新興出版社啓林館)

編修方針は、ますます多様化していく社会の中で、様々な人々と協働しながら持続可能な社会の担い手となる児童に必要な資質・能力を培う観点から、「教師が教えやすく、児童とともに学べる教科書」「児童が興味をもって、みんなといっしょに学べる教科書」「保護者が子どもの成長を感じながら、子どもとともに学べる教科書」としている。

装丁は、オールカラー印刷のAB判(210mm×257mm)、5年生用・6年生ともに136ページ、巻末には厚紙の付録(授業で使用する教材やカード)が収録されている。課数は、5年生用・6年生用ともに8課(Unit1~8)で、3部構成となっているものの、各課が独立した内容となっている。主要な登場人物は、日本人(Hana, Riku, Sakura, Kai, Momoka, Taiga)、イギリス人(Emma)、シンガポール人(Jimmy)、アメリカ人(Mr. Smith)の9名である。

課(Unit)の構成は、の構成は、【とびら(GOAL, Listen and Guess)】→【Part 1(Listen and Play, Jingle, Chant, Listen and Say):「聞く」「話す」】→【Part 2(Listen and Play, Jingle, Listen and Do, Chant, Look and Say):「聞く」「話す(やり取り)」】→【Part 3(Chant, Look and Say, Activity:「聞く」「話す(発表)」】→【Looking Back(CAN-DOリスト), Do you know?】→【Let's Read and Write:「読む」「書く」】となっている。

その他の特色は、4技能5領域の活動と複数の領域との統合的活動、モジュール(短時間学習)マーク、独自の手書き書体(ユニバーサルデザイン)の開発、4線ノートの工夫(幅)、二次元コード(QRコード)の設置、特別支援教育への配慮(カラーユニバーサルデザイン等)、Unitの扉にGOAL(Unit全体の目標)を設置、各パートに目標とバロメーター(学びの見通しと達成度の確認)を設置、Looking Backのコーナー(CAN-DOリスト)、Do you know?のコーナー(異文化への理解)、巻末にCAN-DOリストの一覧を設置、ICTの活用、中学年との接続および中学校との連携(小中連携)、人権・異文化理解など多様性への配慮、地球環境への配慮(再生紙と植物性インキの使用)などがある。

IV. 考 察

令和2年4月から小学校で使用されている英語の検定教科書について、編修方針、製本仕様、構成

内容などの観点から分析した結果を考察する。小学校の英語教科書の装丁は、印刷は7社ともすべてオールカラーであるが、教科書のサイズはAB判(210mm×257mm)が5社、A4判(210mm×297mm)が2社であった。ページ数は5年生用と6年生用で同一数が3社、5年生用より6年生用の方が多いものが2社、5年生用の方が6年生用よりも多いのが2社であった。なお、AB判(210mm×257mm)を採用している出版社が多いが、このサイズは現在の中学校の英語教科書6社のうち4社と同じ大きさである⁽⁶⁾。(表3)

表3 小学校英語教科書の判型と頁数⁽⁷⁾

	CR	HR	SS	TO	OW	HW	BS
	AB判	A4判	AB判	A4判	AB判	AB判	AB判
5年生用	128	96	118	157	118	136	136
6年生用	128	96	127	153	112	140	136
計	256	192	245	310	230	276	272

(出所) 筆者作成

小学校の英語教科書の課数は、5年生用の教科書における最小値は『Crown Jr. 5,』(三省堂)の7課で、最大値が『Junior Total English 1, 2』(学校図書)の10課、6年生用の教科書における最小値は『Crown Jr. 5』(三省堂)の7課で、最大値は『Junior Sunshine 5, 6』(開隆堂)の11課であった。5年生用と6年生用の2学年の合計数における最低値は『Crown Jr. 5, 6』(三省堂)の14課で、最大値は『Junior Sunshine 5, 6』(開隆堂)と『Junior Total English 1, 2』(学校図書)の20課であった。また、『Junior Sunshine 5, 6』(開隆堂)のみが学年で課数に差があったが、他の6社は2学年で同じ課数を設定している。(表4)

表4 小学校英語教科書における課数⁽⁸⁾

	CR	HR	SS	TO	OW	HW	BS
5年生用	7, (3)	8, (3)	9, (2)	10	9	9, (3)	8, (1)
6年生用	7, (3)	8, (3)	11, (2)	10	9	9, (3)	8, (1)
計	14, (6)	16, (6)	20, (4)	20	18	18, (6)	16, (2)

(出所) 筆者作成

主要な登場人物については、主人公である日本人の友達や先生(ALT)として世界中から多様な外国人が登場していることが明らかになった。表5は、教科書に登場する主要な人物を出身国別に多い順に並べたものである。教科書における主要な登場人物における最小値は『Crown Jr. 5, 6』(三省堂)と『New Horizon Elementary English Course 5, 6』(東京書籍)の6名で、最大値は『One World Smiles 5, 6』(教育出版)の12名であった。このうち、日本人を除いて外国人のみとすると、最小値は『New Horizon Elementary English Course 5, 6』(東京書籍)と『Blue Sky Elementary 5, 6』(新興出版社啓林館)の3名で、最大値は『One World Smiles 5, 6』(教育出版)の6名となる。出身国別に、

英語を母語としている国（English as a native speaker：ENL）、英語を第二言語として生活で使用している国（English as a second language：ESL）、英語を外国語として学習している国（English as a foreign language：EFL）に分類すると、英語を母語としている国（ENL）は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダの4か国、英語を第二言語として生活で使用している国（ESL）は、インド、シンガポール、フィリピンの3か国、英語を外国語として学習している国（EFL）は、日本、中国、ブラジル、フィンランドとなる。すべての教科書に、モデルとしての英語ネイティブの国（ENL）の人物が登場していることは予想されるが、英語を第二言語として生活で使用している国（ESL）の人物もすべての教科書において登場していることが判明した。さらに、（ENLとESLの国に加えて）英語を外国語として学習している国（EFL）の人物も登場する教科書は、『Crown Jr. 5, 6』（三省堂）、『New Horizon Elementary English Course 5, 6』（東京書籍）、『One World Smiles 5, 6』（教育出版）、『Blue Sky Elementary 5, 6』（新興出版社啓林館）の4社であった。中でも、『One World Smiles 5, 6』（教育出版）は、児童1名に加えてALT（外国人指導助手）1名もESLのフィリピンの出身である他、児童1名をEFLのフィンランドの出身とするなど独創的な教科書づくりが行われていた。

その他の特色としては、4技能5領域の活動のマーク、独自の手書き書体（ユニバーサルデザイン）の開発、4線ノートの工夫（幅）、二次元コード（QRコード）の設置、特別支援教育への配慮（カラーユニバーサルデザイン等）、CAN-DOリストの明示、他教科との関連した活動、ICTの活用、中学校との連携（小中連携）、人権・異文化理解など多様性への配慮、地球環境への配慮（再生紙と植物性インキの使用）が共通している。但し、独自の手書き書体（ユニバーサルデザイン）と4線ノートの工夫（幅）については、例えば、『Junior Sunshine 5, 6』（開隆堂）の4線ノートの幅の比率は、4：5：4であるのに対して、『Junior Total English 1, 2』（学校図書）の比率は5：6：5であり、各社が独自に開発しているもので統一されているわけではないということも明らかになった。

表5 小学校英語教科書における主な登場人物の出身国別人数

登場人物の出身国	CR	HR	SS	TO	OW	HW	BS	計
日本	2	3	3	5	6	4	6	29
アメリカ	1	1	2	1	2	1	1	9
インド	1	0	0	1	0	1	0	3
オーストラリア	1	0	0	1	0	1	0	3
シンガポール	0	1	1	0	0	0	1	3
カナダ	0	0	1	0	0	1	0	2
フィリピン	0	0	0	0	2	0	0	2
ブラジル	0	1	0	0	1	0	0	2
イギリス	0	0	0	0	0	0	1	1
中国	1	0	0	0	0	0	0	1
フィンランド	0	0	0	0	1	0	0	1
計	6	6	7	8	12	8	9	56

（出所）筆者作成

補足となるが、小学校の英語教科書の一つの特徴と言えるのが著作者の数の多さである。『Crown Jr. 5, 6』（三省堂）が30名、『New Horizon Elementary English Course 5, 6』（東京書籍）が63名、『Junior Sunshine 5, 6』（開隆堂）が46名、『Junior Total English 1, 2』（学校図書）が22名、『One World Smiles 5, 6』（教育出版）が25名、『Here We Go! 5, 6』（光村図書）が29名、『Blue Sky Elementary 5, 6』（新興出版社啓林館）が60名である。最小値は『Junior Total English 1, 2』（学校図書）の22名で、最大値は『New Horizon Elementary English Course 5, 6』（東京書籍）の63名であり、中学校や高等学校の英語教科書の著作者の数と比べて非常に多い。この要因としては、各出版社が小学校の英語教育を専門とする大学教員や小学校で英語教育を実践してきた小学校教諭に加え、校種の小中連携の観点から中学校の英語教科書の著作関係者も参画しているからであり、より充実した著作・編修の作業が丹念に行われていると言えよう。

以上のように、2020年（令和2年）4月から小学校の高学年（5年生・6年生）で初めて使用されているすべての英語の検定教科書（7社14冊）について様々な観点からの分析を試みた結果、教育基本法、学校教育法、新しい学習指導要領を遵守しながらも、4技能5領域の活動、複数の領域との統合的な活動、CAN-DO形式による学習到達目標の明示、音声や動画の二次元コード（QRコード）の設置、独自の手書き書体の開発、4本線の工夫（幅・線種・色合い）、カラーユニバーサルデザイン（CUD）等を含む特別支援教育への配慮、ICTの活用、中学年との接続および中学校との連携（小中連携）、教科横断学習（CLIL）、各課に歌を設置、人権・異文化理解など多様性への配慮など、出版社ごとに独創的な試みなど様々な創意工夫が随所に施されていることが明らかになった。

V. おわりに

現在社会は、グローバル化や高度情報化社会、少子高齢化などの進展に伴って、高度化・複雑化する諸課題が生じているとともに、変化が激しく先行きが非常に不透明な時代となっている。こうした状況においては、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、知識を活用し、付加価値を生み、新たな価値を創造していくことや、国際的視野を持ち、個人や社会の多様性を尊重しつつ、他者と協働して課題解決を行うことができる人材が社会に求められている。そこで、新しい学習指導要領には、未来を切り拓くために必要となる育成すべき資質・能力の三つの柱として、「生きて働く知識及び技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養」を掲げている。本研究で分析の対象とした小学校で初めてとなる英語の検定教科書（7社14冊）は、新学習指導要領で示された未来を切り拓くために必要となる資質・能力を具現化したものである。この教科書で英語を学んでいる子供たちが大人になって社会に出て活躍している頃には、Society 5.0や第4次産業革命が到来し、より一層少子高齢化やグローバル化が進展し、さらには人工知能（AI）の飛躍的進化に伴って予測困難な時代を迎えていることになる。子供たちには各出版社の編集者や著作者の熱い思いが詰まった教科書での英語の学習を通して21世紀を逞しく生き抜くための資質・能力を身に付け、持続可能な社会の担い手として新たな価値を生み出し、よりよい社会と幸福な人生の創り手として逞しく生き抜くことを大いに期待したい。

注

- (1) ここでの公立学校とは、1900年(明治33年)の小学校令および1907年(明治40年)の小学校令一部改正による尋常小学校や1941年(昭和16年)の国民学校令における国民学校初等科のことである。1900年(明治33年)の小学校令および1907年(明治40年)の小学校令一部改正による高等小学校、1941年(昭和16年)の国民学校令における国民学校高等科においては英語の授業が実施されていた学校もあるが、両者はともに当時の義務教育課程ではなく、新学習指導要領で施行されている義務教育課程における小学校での英語教育とはみなさない。
- (2) 今回の改訂では、小学校の中学年(3年生、4年生)に、新たに「外国語活動」を導入し、目標として「聞くこと」、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」の3つの領域を設定し、音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成するとしている。
- (3) 教科書名称の末尾の5, 6とは、(例えば『Crown Jr. 5, 6』)、それぞれ5年生用、6年生用を示している。なお、学校図書のみ『Junior Total English 1, 2』と1, 2となっているが、それぞれ5年生用、6年生用を示している。
- (4) 2020年(令和2)年10月現在、中学校で使用されている英語の教科書の出版社は、三省堂(『New Crown English Course』)、東京書籍(『New Horizon English Course』)、開隆堂(『Sunshine English Course』)、学校図書(『Total English』)、教育出版(『One World English Course』)、光村図書(『Columbus 21 English Course』)の6社である。
- (5) 光村図書の現在の中学校英語教科書の名称は「Columbus 21」であるが、次期学習指導要領に向けて次の改訂版で(小学校の英語教科書と同じ)「Here We Go!」という名称に変更される予定である。
- (6) 中学校で使用されている英語の教科書(6社)の判型は、AB判(210mm×257mm)で作成しているのが4社(『New Crown English Course』三省堂、『New Horizon English Course』東京書籍、『Sunshine English Course』開隆堂、『Columbus 21 English Course』光村図書)で、B5判(182mm×257mm)で作成しているのが2社(『Total English』学校図書、『One World English Course』教育出版)である。
- (7) 表の記号は、CRが『Crown Jr. 5, 6』(三省堂)、HRが『New Horizon Elementary English Course 5, 6』(東京書籍)、SSが『Junior Sunshine 5, 6』(開隆堂)、TOが『Junior Total English 1, 2』(学校図書)、OWが『One World Smiles 5, 6』(教育出版)、HWが『Here We Go! 5, 6』(光村図書)、BSが『Blue Sky Elementary 5, 6』(新興出版社啓林館)を示している。
- (8) 表の括弧が付いた数字は、通常の課(Lesson, Unit)ではなく、まとめを行う部分であり、LessonやUnitではない名称(ProjectやReviewなど)がついているので通常の課とはみなさずに別枠で示している。

参考文献

- アレン玉井光江・阿野幸一ほか(2020a)『New Horizon Elementary English Course 5 教師用指導書』東京書籍。
- アレン玉井光江・阿野幸一ほか(2020b)『New Horizon Elementary English Course 6 教師用指導書』東京書籍。
- 景浦攻ほか(2020a)『Blue Sky Elementary 5 Teacher's Manual』新興出版社啓林館。
- 景浦攻ほか(2020b)『Blue Sky Elementary 6 Teacher's Manual』新興出版社啓林館。
- 金森強・本多敏幸・松本茂ほか(2020a)『Here We Go! 5 教師用指導書』光村図書。
- 金森強・本多敏幸・松本茂ほか(2020b)『Here We Go! 6 教師用指導書』光村図書。
- 菅正隆(2017)、『小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』ぎょうせい。
- 小泉仁・加賀田哲也ほか(2020a)『One World Smiles 5 教師用指導書』教育出版。
- 小泉仁・加賀田哲也ほか(2020b)『One World Smiles 6 教師用指導書』教育出版。

- 酒井英樹ほか (2020a) 『Crown Jr. 5 Teacher's Manual』三省堂.
- 酒井英樹ほか (2020b) 『Crown Jr. 6 Teacher's Manual』三省堂.
- 鈴木浩之・高野敬三ほか (2020a) 『Junior Sunshine 5 Teacher's Manual』開隆堂.
- 鈴木浩之・高野敬三ほか (2020b) 『Junior Sunshine 6 Teacher's Manual』開隆堂.
- 中央教育審議会 (2016) 「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」文部科学省.
- 文部科学省 (2011) 「今後の英語教育の改善・充実方策についてーグローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言ー」文部科学省.
- 文部科学省 (2013) 「各中・高等学校の外国語教育における『リスト』の形でのCAN-DO学習到達目標設定のための手引き」文部科学省.
- 文部科学省 (2015a) 「教育課程企画特別部会 論点整理」文部科学省.
- 文部科学省 (2015b) 「生徒の英語力推進プラン」文部科学省.
- 文部科学省 (2016) 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」文部科学省.
- 文部科学省 (2017a) 『小学校学習指導要領』(平成29年告示) 文部科学省.
- 文部科学省 (2017b) 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』旺文社.
- 文部科学省 (2018a) 『Let's Talk 1』東京書籍.
- 文部科学省 (2018b) 『Let's Talk 2』東京書籍.
- 文部科学省 (2018c) 『We Can! 1』東京書籍.
- 文部科学省 (2018d) 『We Can! 2』東京書籍.
- 吉田研作ほか (2020a) 『Junior Total English 1 Teacher's Manual』学校図書.
- 吉田研作ほか (2020b) 『Junior Total English 2 Teacher's Manual』学校図書.

分析に使用した教科書

- アレン玉井光江・阿野幸一ほか (2020c) 『New Horizon Elementary English Course 5』東京書籍.
- アレン玉井光江・阿野幸一ほか (2020d) 『New Horizon Elementary English Course 6』東京書籍.
- 景浦攻ほか (2020c) 『Blue Sky Elementary 5』新興出版社啓林館.
- 景浦攻ほか (2020d) 『Blue Sky Elementary 6』新興出版社啓林館.
- 金森強・本多敏幸・松本茂ほか (2020c) 『Here We Go! 5』光村図書.
- 金森強・本多敏幸・松本茂ほか (2020d) 『Here We Go! 6』光村図書.
- 小泉仁・加賀田哲也ほか (2020c) 『One World Smiles 5』教育出版.
- 小泉仁・加賀田哲也ほか (2020d) 『One World Smiles 6』教育出版.
- 酒井英樹ほか (2020c) 『Crown Jr. 5』三省堂.
- 酒井英樹ほか (2020d) 『Crown Jr. 6』三省堂.
- 鈴木浩之・高野敬三ほか (2020c) 『Junior Sunshine 5』開隆堂.
- 鈴木浩之・高野敬三ほか (2020d) 『Junior Sunshine 6』開隆堂.
- 吉田研作ほか (2020c) 『Junior Total English 1』学校図書.
- 吉田研作ほか (2020d) 『Junior Total English 2』学校図書.

資料 小学校英語教科書の課 (Lesson, Unit) 一覧

『Crown Jr. 5』(三省堂)	『Crown Jr. 6』(三省堂)
Lesson 1 I have many yo-yos. Lesson 2 I can jump high. Lesson 3 She is a cook. Lesson 4 I get up at 7:00. Lesson 5 I play soccer on Mondays. Lesson 6 It is in the box. Lesson 7 I want to go to Kenya.	Lesson 1 We are from India. Lesson 2 We have Children's Day in May. Lesson 3 I went to Hawaii. Lesson 4 I am hungry. Lesson 5 It was green. Lesson 6 I want to be a vet. Lesson 7 At This Moment
『New Horizon Elementary 5』(東京書籍)	『New Horizon Elementary 6』(東京書籍)
Unit 1 Hello, friends. Unit 2 When is your birthday? Unit 3 What do you want to study? Unit 4 He can bake bread well. Unit 5 Where is the post office? Unit 6 What would you like? Unit 7 Welcome to Japan.	Unit 1 This is me! Unit 2 How is your school life? Unit 3 Let's go to Italy. Unit 4 Summer Vacations in the World Unit 5 We all live on the Earth. Unit 6 Let's think about our food. Unit 7 My Best Memory
『Junior Sunshine 5』(開隆堂)	『Junior Sunshine 6』(開隆堂)
Lesson 1 Nice to meet you. Lesson 2 When is your birthday? Lesson 3 What do you have on Mondays? Lesson 4 Can you do this? Lesson 5 Where is your treasure? Lesson 6 My Hero Lesson 7 Happy New Year Lesson 8 What would you like? Lesson 9 I love my town.	Lesson 1 We are friends. Lesson 2 What time do you get up? Lesson 3 Where do you want to go? Lesson 4 Welcome to Japan. Lesson 5 I want to see the Milky Way. Lesson 6 My summer Vacation Lesson 7 Watch the world. Lesson 8 What sports do you like? Lesson 9 My Favorite Memory Lesson 10 I have a dream. Lesson 11 Junior High School Life
『Junior Total English 1』(学校図書)	『Junior Total English 2』(学校図書)
Lesson 1 What sport do you like? Lesson 2 How many CDs do you have? Lesson 3 What do you have on Fridays? Lesson 4 Where is the beach ball? Lesson 5 What time do you get up on Sundays? Lesson 6 Can you walk on takeuma? Lesson 7 When is your birthday? Lesson 8 What would you like? Lesson 9 Where do you want to go? Lesson 10 Who is your hero?	Lesson 1 I'm from India. Lesson 2 What vegetable do you like? Lesson 3 What festival do you want to see? Lesson 4 I went to my grandparents' house. Lesson 5 We have a big park. Lesson 6 Where do you want to go? Lesson 7 What's your best memory? Lesson 8 What do you want to be? Lesson 9 Who is this? Lesson 10 What club do you want to join?
『One World Smiles 5』(教育出版)	『One World Smiles 6』(教育出版)
Lesson 1 Nice you meet to you. Lesson 2 When is your birthday? Lesson 3 I have P.E. on Monday. Lesson 4 This is my dream day. Lesson 5 I can run fast. Lesson 6 Where do you want to go? Lesson 7 I'd like a pizza. Lesson 8 Where is the station? Lesson 9 This is my dream friend.	Lesson 1 Let's be friends. Lesson 2 My town is beautiful. Lesson 3 Welcome to Japan. Lesson 4 My summer Vacation Lesson 5 What country do you want to visit? Lesson 6 Olympics and Paralympics Lesson 7 My Bast Memory Lesson 8 What do you want to be? Lesson 9 Junior High School Life

『Here We Go! 5』(光村図書)	『Here We Go! 6』(光村図書)
Unit 1 Hello, everyone. Unit 2 When is your birthday? Unit 3 What do you have on Monday? Unit 4 What time do you get up? Unit 5 He can run fast. She can do <i>kendama</i> . Unit 6 I want to go to Italy. Unit 7 What would you like? Unit 8 Where is the gym? Unit 9 My hero is my brother.	Unit 1 This is me! Unit 2 Welcome to Japan. Unit 3 What do you want to watch? Unit 4 My Summer Vacation Unit 5 He is famous. She is great. Unit 6 This is my town. Unit 7 My Best Memory Unit 8 What do you want to be? Unit 9 Junior High School Life
『Blue Sky Elementary 5』(新興出版社啓林館)	『Blue Sky Elementary 6』(新興出版社啓林館)
Unit 1 My birthday is May 10th. Unit 2 I study math on Monday. Unit 3 I sometimes walk the dog. Unit 4 She can sing well. Unit 5 This is my sister. Unit 6 I want to go to France. Unit 7 Where's the park? Unit 8 I'd like pizza.	Unit 1 I'm from Tokyo, Japan. Unit 2 Welcome to Japan. Unit 3 I want a big park in our town. Unit 4 My summer vacation was great. Unit 5 What did you do last weekend? Unit 6 I enjoyed school. Unit 7 I want to be a vet. Unit 8 I want to join the brass band.

(出所) 筆者作成